

## 答 辞

厳しい寒さと大雪に見舞われた冬でした。登校手段にも支障が出て、難儀した日も幾日かありました。それでも季節は確実に巡り、柔らかな春の風を感じます。弥生、三月一日、私たちのために、盛大で心温な卒業式を挙げていただきました。心よりお礼を申し上げます。

坂道が続く先に、白く輝いてそびえる校舎は、まるで両腕を広げるようにして、毎日、私たちを迎えてくれました。三年前の春、真新しい制服に身を通し、この体育館で、入学を祝っていただいたのが昨日のことに感じられるというのに、豊かな自然に包まれた、見慣れた風景に別れを告げなければなりません。

長い人生の中、一瞬でしかない青春時代。その中の一部分でしかない高校生活。西仙北高校創立五十周年という節目の年に入学した私たちは、一番大切な三年間をここで過ごしました。様々な出来事が胸に蘇ってきます。

入学当初は見知らぬもの同士、気を遣い、手探りで、互いの中にある距離をせばめていったものでした。学校行事やホームルーム活動、ボランティア、日々の授業を通してさらに絆を深めていきました。二年次の修学旅行も格別でした。部活動と勉強を両立させるのは大変なことだったと思いますが、練習や試合の中で流した汗と涙はそれぞれを大きく成長させてくれました。

私自身は、今までやったこともない、生徒会長という大役をいただきました。西高祭の準備では、執行部間の意見がまとまらず、開催そのものも危ぶまれるほどの混乱ぶりでした。会長としてまとめていくことに自信を失いかけたとき、皆で話し合い、力を出し合い、光を見つけました。成功を納めることができたのは、全校生徒のエネルギーと、先生方のご協力のおかげです。貴重な経験を積ませてもらえたと思います。

校長先生はじめ、諸先生方、職員の皆様。生徒のことを第一に考え、全力でサポートしてくださいました。厳しいご指導も温かく見守ってくださったことも、私たちを思っただけの感謝の気持ちでいっぱいです。一人の人間として生きていくための得がたい体験を、この校舎のあちらこちらで重ねることができました。

地域の皆様。いつも声を掛けてくださり、我が子を見守るように接していただきました。ありがとうございました。人と人とのつながりの大切さを教わりました。

在校生の皆様。伝統のバトンを受け継ぎ、よりよい学校にしてくれると信じています。わずか三年しかない高校生活。思いっきり悩み、笑い、謳歌してください。

家族の皆様。一番近くで見守ってくれ、家に帰ると安心できる温かい場所がありました。たくさんの心配や迷惑を掛けてきましたが、私たちを信じ、変わらぬ愛情を注いでくださいました。

卒業生の皆さん。西仙北高校という学び舎で出会い、共に同じ時間を過ごし、共に何かに挑戦してきました。たわいもない会話をしたり、笑い合ったり、時にはけんかをしたこともありました。就職や進学のための試験が迫ってくると、クラスの中に、ピリピリとした雰囲気も漂いました。社会に出て行くために通らなければならない試練は厳しかったけれど、合格が決まると、心からの祝福の声が上がりました。壁にぶつかっても、仲間がいたからこそ、乗り越えることができたのだと思います。共有した時間は自分たちの人生にとって欠くことのできない一ページとなりました。かけがえのない友と分かち合ってきた喜びや悲しみは、私たちの一生の宝物です。

人生には、思い通りにならないことの方が多いということに、私たちは気づき始めています。当たり前のように有り続ける日常が、実は当たり前ではなく、とても不安定で、だからこそ貴重なものであることも知っています。そして、今日より私たちは、自分の未来を信じ、それぞれの夢を実現させるため、自分の道を歩み始めます。別れの寂しさはぬぐえませんが、それ以上の希望と喜びに満ちています。

私たちの進む道を示し、背中を押してくださった全ての皆様に、お礼と感謝の気持ちを込めて、答辞といたします。ありがとうございました。

平成三十年三月一日

卒業生代表 村上 滉大